

## 普及現地情報



発信年月日：令和5年（2022年）3月2日

所属名：高島農産普及課

番号：H22016

部門分類：120

発信者名：小嶋俊彦、三木幸次

## 高島地域で麦の茎立期研修会を開催

令和5年2月22日に、高島市鴨と今津町平ヶ崎の2か所の現地圃場で麦の単収向上を目的とした茎立期研修会を、関係機関と連携して開催したところ、61名が参加がしました。ドローンによる肥料散布の実演では、10アールあたり5分と省力・効率的な散布を目の当たりにし、出席者の多くがドローンの有効性を再確認されました。

高島地域では、主食水稻が栽培されていない圃場には、加工用米や飼料用米、稲WCSが作付られており、令和2年の麦作付け面積は、97haと水田面積のわずか2%（県平均16%）と低い状態が続いていました。近年の米価の下落と生産資材費の高騰により、土地利用型農家の経営状況は悪化しています。当課では、収益性が高い麦の作付けを推進するとともに、単収向上が期待できる「後期重点施肥」技術の普及と六条大麦「ファイバースノウ」から小麦「びわほなみ」への転換を進めています。

このことから、高島地域の現地圃場で麦の「茎立期研修会」を開催しました。当課からは、麦の生育状況と今後の管理作業、新施肥法「後期重点施肥」、小麦新品種「びわほなみ」の特性について説明しました。また、JAレーク滋賀大津北営農経済センターの田中センター長に、先進的な大津市でのスマート農業の取り組みとドローンの活用方法およびリモートセンシング技術について説明いただき、実際に30kg搭載可能なドローンを使って施肥の実演をしていただきました。作業時間は、30アール、尿素120kg散布で15分でした。前日の降雪で、5～10cmの積雪がありましたが、数日で消雪すると考えられたことから、雪上散布を実施いただきました。

高島地域は、積雪期間が長く湿田も多いことから、肥料を空中から散布できるドローンは、圃場が荒れず効率的な散布方法と考えられました。今後は、引き続き関係機関と連携して麦の生育確認や情報共有により、適正施肥や赤かび病防除、適期収穫を指導することで単収と品質を確保し、次年の作付け拡大を図ります。



高島市鴨の研修状況



今津町平ヶ崎の研修状況